

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第289回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成21年4月17日（金） 9：30～16：00

2. 場 所 東京工業大学 大岡山西8号館 大会議室

3. 出席者46名（順不同・敬称略）

委 員 長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、鏑木裕（東京都市大）、羽鳥浩章（産総研）

幹 事： 阿久沢昇（東京高専）、稲垣道夫（北大名誉）吉田明（東京都市大）
榎敏明（東工大）、安田榮一（東工大）、遠藤守信（信州大）
小林知洋（理研）

委 員： 岩下哲雄（産総研）、蛭谷玄太（コバレントマテリアル／代理：吉光
大志）、大澤善美（愛知工大）、太田道也（群馬高専）、尾崎純一
（群馬大）、川野陽一（新日鐵化学／代理：水内和彦）、京谷隆
（東北大）、金野英隆（北大）、塩山洋（産総研）、白石稔（東海大）、
新野仁（物材機構）、須田吉久（三菱鉛筆）、園部直弘（クレハ）、
高波浩（タンケンシーラセーコウ／代理：木村直文）、戸田晋次郎
（日本電極）、豊田昌宏（大分大）、林慎治（新日鐵化学）、平原聡
（三菱化学）、福田敏昭（東海カーボン／代理：味曾野伸司）、
藤本宏之（大阪ガス）、持田薫（九州大／代理：宮脇仁）、原田博文
（日本カーボン／代理：柴田博史）

委 員 外： 大谷朝男（東工大）、押田京一（長野高専）、木村脩七（東工大名誉）、
鈴木弘茂（東工大名誉）、鳥飼直親（横国大）、中村和正（中央大）、
夏目勇（元東海カーボン）、西澤節（元神戸製鋼所）
菱山幸宥（東京都市大名誉）

同伴者他： 吉澤徳子（産総研）、棚池修（産総研）、矢形朋史（東大）、松尾吉晃
（兵庫県立大）

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4. 1 前回議事録の承認

以下を訂正し、前回議事録（案）を承認した。

B 分科会議事録 12行目 $N_B/N_B \rightarrow N_B/N_C$

C 分科会議事録 6行目 長さ約 200nm、直径 50~80 μ m \rightarrow 直径約 200nm、長さ 50~80 μ m

A 分科会議事録 6行目 精製 \rightarrow 生成

4. 2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動等

a) 入退会関係

退会：新日本石油株式会社

退会：群馬工業高等専門学校 小島昭氏（委員外）

b) 委員の交代

・財団法人鉄道総合研究所 材料技術研究部 摩擦材料 主任研究員 土屋広志氏

（久保俊一氏より交代）

・関西熱化学株式会社 研究開発センター 副所長 安丸純一氏

（出原久嗣氏より交代）

・新日鐵化学株式会社 製鉄化学事業本部 戦略企画部 理事 林慎治氏

（竹原正治氏より交代）

・トライス株式会社 技術本部 技術一部 材料技術課 主任 中川慎也氏

（嶋田正清氏より交代）

c) 所属等変更

・株式会社富士カーボン研究所 専務取締役 大平雅彦氏

（同 取締役室長より変更）

・東洋炭素株式会社 代表取締役社長 近藤純子氏

（同 取締役副社長より変更）

・環境炭素材料研究所 代表 安部郁夫氏（委員外）

（旧所属 （社）大阪工研協会 活性炭技術研究会）

・東京都市大学 工学部エネルギー化学科 大学院工学研究科エネルギー量子専攻

教授 鏑木裕氏（旧所属 武蔵工業大学）

・東京都市大学 総合研究所 機器分析室 大学院工学研究科エネルギー量子専攻

准教授 吉田明氏（旧所属 武蔵工業大学）

・関西大学 環境都市工学部 エネルギー・環境工学科 教授 小田廣和氏

（旧所属 関西大学工学部化学工学科）

(b)日独セミナーについて

- ・ 日程 2009年6月22日(月)～23日(火)
- ・ 炭素材料学会に共催の了承を得て、年会(筑波大)および炭素誌会告でアナウンス済
- ・ 117委員会HP、個別メールで告知
- ・ 現在参加申し込み15名(学界13、産業界2)
- ・ 4/24まで申込締切延長
- ・ 日本学術振興会協力会による特別事業援助に採択済(旅費補助総額100万円)。支給希望者の調査を行い、委員長が対象者を決定する。

(c)次回以降の予定について

平成21年度

第2回 7/17(金) [C,A,B] 東京都市大(会場担当: 鎗木主査)

第3回 9/18(金) [A,B,C] 東大(会場担当: 寺井委員長)

第4回 11/19(木) 特別講演会(合同開催: 炭素材料学会60周年記念式典) 主婦会館
11/20(金) [B,C,A,D] 産総研臨海副都心センター(会場担当: 羽鳥主査)

(2) 分科会報告

(117-289-B1) 無煙炭の黒鉛化、ラマンスペクトルによる検討

○吉田明¹、鎗木裕²、菱山幸宥³(東京都市大総合研究所機器分析室¹、
東京都市大工学部²、東京都市大名誉教授³)

(117-289-B2) Liのインターカレーション反応を利用した炭素繊維へのインターカレーション機構の解明

竹中麻美、○豊田昌宏(大分大学)

(117-289-C1) リチウムイオン電池用負極材における炭素ナノ繊維の複合効果

○宮脇仁(九州大学先端物質化学研究所)

(117-289-C2) 電気化学ドーピングを施した単層カーボンナノチューブの導電特性と化学的安定性

君塚統¹、佐伯進¹、山田能生¹、棚池修²、○羽鳥浩章²(福井大・院工¹、
産総研²)

(117-289-A1) K-GICルートで調製した「グラフェン」の光化学物性

○塩山洋(産総研)

4. 3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

(a) 学会関係：京谷委員（運営委員長）より以下の報告があった。

- ・ 本年より事務局が国際文献印刷社に変更になった。
- ・ 2/6 に開催された2月セミナーは、不況の影響あるも50名以上の参加者があった。
- ・ 6/5 に電気二重層キャパシタをテーマとした先端技術講習会が京都で行われる。

(b) 炭素誌関係：楠木幹事（編集委員長）より以下の報告があった。

- ・ 237号は42ページと分量的に少なめであった。今後積極的な投稿をお願いしたい。
- ・ 238号は新世代ナノカーボンをテーマに6/5に出版される。
- ・ 240号は電気エネルギー関連をテーマに現在投稿募集中である。
- ・ 電子投稿(PDFによる投稿・査読)がスタートしている。

(2) 国際会議関係

寺井委員長より下記会議日程の再確認があった

- ・ Carbon2009 6/14-19 (仏 Biarritz)
- ・ 第一回日独セミナー 6/22-23 (独 Meitingen)
大谷氏より下記シンポジウムの紹介があった。
- ・ 国際ナノファイバーシンポジウム 2009 6/18-20 (東工大)

(3) J-PARC (大強度中性子実験施設) 関係

寺井委員長より下記の経過説明があった。

- ・ 12/25 第一回量子ビーム融合化研究領域専門委員会に出席（吉田幹事、中村氏、曾根田氏、小林幹事）し、豊田委員、中村氏、小林幹事の計11件の実験テーマを提案した。
- ・ 4/2 第二回量子ビーム融合化研究領域専門委員会幹事会に出席（寺井委員長、小林幹事）し、他の学振委員会からのテーマと併せ、J-PARCの設備増強提案に適したものをピックアップした。
- ・ 設備増強の必要の無いテーマ（中性子ビームのみ利用）のトライアル申し込みは既に可能である。
- ・ 今後も研究テーマの提案は受け付ける。

日本原子力研究開発機構（JAEA）石山氏より以下の経過報告があった。

- ・ 各学振委員会からの提案テーマをJAEAで評価・分類し必要設備を検討した。
- ・ 中性子+放射光（軟X線）+強力X線の組み合わせで各委員会提案テーマの9割を

実行できる見込みである。

- ・今年度末までに量子ビーム融合化研究領域専門委員会としての報告書を完成させ、設備増強申請の土台とする。

(4) ラマン分光標準化について

吉田特任幹事より G-2D バンド間隔と黒鉛化度との関連性を精査することで標準化へ繋げたい旨報告があった。

(5) 特別シンポジウムについて

小林幹事より、平成 20 年度特別シンポジウムは 288 回委員会に先立って 11 月 13 日 (木) に産総研臨海副都心センター別館 11205 室で行われ、27 名の参加者があった旨報告があった。御講演頂いた先生方及びタイトルは以下の通り。

山田 泰弘 先生 (日本ケミコン(株)・産総研)

「熱伝導性炭素材料を含有したサーマルインターフェース材料」

高原 克典 先生 ((元) 東京工業大学 大学院理工学研究科 化学専攻)

「3 次元的ナノグラファイトネットワークの電子・磁気物性における分子吸着効果」

阿久沢 昇 先生 (東京工業高等専門学校)

「アルカリ金属-黒鉛層間化合物の多様な性質と機能」

山田 能生 先生 ((元) 産総研・福井大学)

「脱フッ素化反応による各種フッ素化有機物からの炭素材料」

阿久沢幹事より、平成 21 年度特別シンポジウムは 11 月 19 日に炭素材料学会の 60 周年記念式と合同開催される旨報告があった。場所は主婦会館プラザエフを予定し、講演を 6 件予定している。

(以上)